

ビジネス「意外性」重要

沖繩公庫が出前授業

具商高生へ基礎知識伝授

【うるま】沖繩振興開発金融公庫は13日、県立具志川商業高校でビジネスプランの作成を支援する出前授業を開いた。日本政策金融公庫主催の第5回高校生ビジネスプラン・グランプリへの参加に向けた取り組み。同校ビジネスマルチメディア科の3年生40人がビジネスにつながる基礎知識や考え方を学んだ。



水道水を千円で売るビジネスプランのアイデアを発表する生徒たち＝13日、うるま市の県立具志川商業高校

安慶名忍上席調査役が講師を務めた。安慶名氏はビジネスの基本的な仕組みを「世の中の人々が求めているニーズ（理想）に対し、現実のギャップを解消するために商品やサービスを提供すること」と説明。ビジネスには「意外性」が重要と強調し、例として古民家を使ったカフェや結婚式場でのコンサート開催などを挙げて「新しいモノを生み出すには、若い人の感覚が必要だ」と話した。

実践講座では「1リットルの水道水が入ったペットボトルを1本千円で販売する方法」を題材にグループワークを実施。生徒からは「有名人がくんだ水として売る」「千円ガチャの景品として売る」「高級フルコース料理の一品として出す」などのユニークな発想が提案された。

授業に参加した翁長屋衣ざん(18)は「みんなで話し合ったプランには、自分にはないアイデアもいっぱいあって参考になった」と強調。グラン

プリに向けて「沖繩の人の生活に役立つようなプランを考えていきたい」と意気込んだ。

グランプリの参加締め切りは9月15日。詳細や問い合わせは沖繩振興開発金融公庫、電話098(941)18830。

平成29年7月23日
提供：沖繩タイムス社
※無断での転用・複写等を禁じます